

男女共同参画に関する職員アンケート結果について

1. 概要

平成29年に策定した「第2次米沢市男女共同参画基本計画」の改訂に向け、市職員を対象に男女共同参画に関するアンケートを実施した。

なお、今年度は、「1.市役所における男女共同参画について、2.育児・介護休暇の取得について、3.労働環境やワークライフバランスについて、4.男女共同参画に関する理解について」の4項目について調査を行った。

2. 実施期間

令和4年7月1日～7月11日

3. 対象者

市職員※ 606 人(男性: 341 人 女性:265 人)

※医療職、会計年度任用職員は除く

4. 回答状況

回答者数 380 人(回答率:63%)

5. 回答者の属性

(1) 性別

1.男性		2.女性		3.その他4.回答しない <合計>	
233 人	62%	142 人	37%	4 人	1%

(2) 年齢

1.10・20 歳代		2.30 歳代		3.40 歳代		4.50 歳代以上		未回答	
67 人	18%	90 人	24%	116 人	30%	106 人	28%	1 人	0%

(3) 婚姻状況

1.結婚している		2.結婚していたが 離別・死別した		3.結婚していない		未回答	
242 人	63%	14 人	4%	121 人	32%	3 人	1%

(4) 家族構成

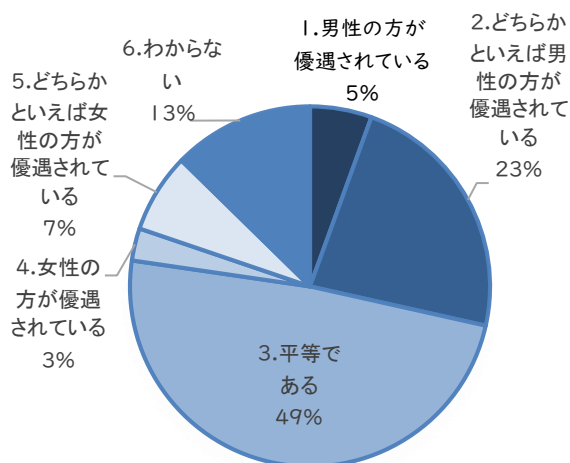
1.一人暮らし		2.夫婦のみ		3.親 + 子		4.親 + 子 + 孫		5.その他		未回答	
51 人	13%	51 人	13%	174 人	46%	38 人	10%	64 人	17%	2 人	1%

1. 市役所における男女共同参画について

問 1.職場での男女の地位について、あなたの考えに近い項目を選んでください。

男女の地位については、49%の職員が平等であると感じているが、男性の方が優遇されている、どちらかといえば男性の方が優遇されていると回答した職員は、28%となった。一方で、女性の方が優遇されている、どちらかといえば女性の方が優遇されていると回答した職員は、10%となっている。

男女別、年齢別の回答状況を見ても、概ね同様の傾向となっていることが分かる。



<男女別・年代別クロス集計結果>

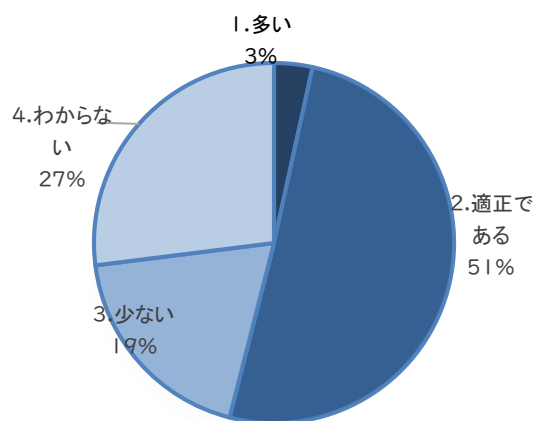
	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.男性の方が優遇されている	4%	8%	4%	7%	5%	6%
2.どちらかといえば男性の方が優遇されている	22%	25%	21%	19%	24%	26%
3.平等である	50%	47%	55%	46%	49%	47%
4.女性の方が優遇されている	4%	1%	1%	4%	2%	4%
5.どちらかといえば女性の方が優遇されている	9%	3%	3%	8%	9%	7%
6.わからない	11%	16%	15%	17%	10%	10%

問 2.本市の女性職員の割合について、どのように思いますか。

(令和4年4月1日現在の正職員数 男 341 人・女 265 人)

女性職員については、51%の職員が適正であると感じているが、19%の職員が少ないと感じている。

男女別、年齢別の回答状況を見ても、概ね同様の傾向となっていることが分かる。



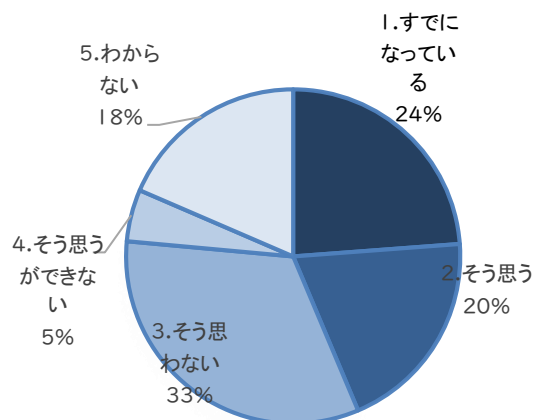
<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.多い	3%	4%	4%	3%	3%	3%
2.適正である	52%	48%	51%	51%	47%	53%
3.少ない	18%	21%	19%	16%	20%	21%
4.わからない	27%	27%	25%	30%	29%	23%

問 3-1.あなたは将来的にキャリアアップし、組織の意志決定に加わる立場（担当主査以上への昇任等）になりたいと思いますか。

将来のキャリアアップについては、20%の職員がそう思うと答えている一方、33%の職員がそう思わないと答えていることから、必ずしも、全員がキャリアアップを望んでいる訳ではないことが伺える。

男女別を見ると、男性より、女性の方がキャリアアップを望まない傾向にあり、女性の意識改革も必要である。また、年齢別の回答状況を見ると、40 歳代以上では、組織の意思決定に加わる立場にすでにしていると回答した割合が高くなっている。



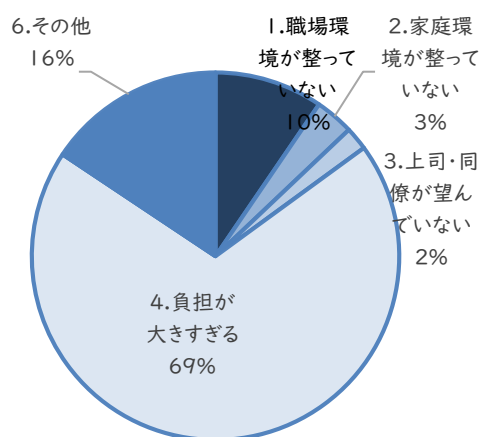
<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.すでにになっている	30%	15%	3%	1%	31%	49%
2.そう思う	23%	15%	30%	29%	17%	9%
3.そう思わない	27%	42%	37%	39%	31%	27%
4.そう思うができない	6%	4%	1%	7%	5%	6%
5.わからない	15%	24%	28%	24%	16%	10%

問 3-2.問 3-1 で「3.そう思わない」「4.そう思うができない」と回答された方に質問です。
そのように思う理由は何ですか。

将来のキャリアアップを望まない理由としては、負担が大きすぎるという理由が69%と最も多く、次に職場環境が整っていないという理由が続いている。

男女・年齢別を見ると、概ね同様の傾向が見られるが、50 歳代以上については、その他の理由も多くなっている。



<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.職場環境が整っていない	13%	4%	7%	14%	5%	12%
2.家庭環境が整っていない	1%	6%	0%	5%	5%	3%
3.上司・同僚が望んでいない	3%	1%	0%	5%	0%	3%
4.負担が大きすぎる	67%	73%	79%	69%	79%	50%
5.そのような立場は男性の役割だと思っている	0%	0%	0%	0%	0%	0%
6.その他	17%	15%	14%	7%	12%	32%

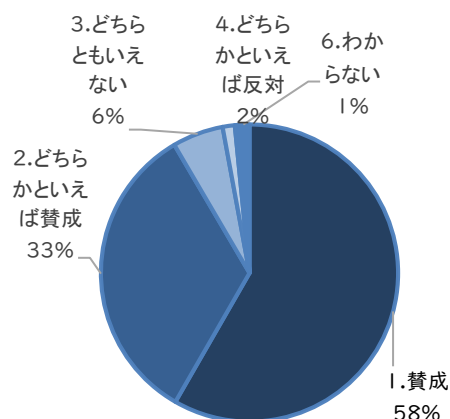
2. 育児休業・介護休暇の取得について

問 4-1. 男性が育児休業や介護休暇を取ることにどう思いますか。また、そう思う理由は何ですか。

※男性職員の育児休業は、令和 7 年度までに男性職員 30%程度の取得率、取得期間については、1か月を目標としています。（米沢市特定事業主行動計画第2期）

男性の育児休業・介護休暇取得については、58%の職員が賛成しており、どちらかといえば賛成も合わせると、91%となることから、ほとんどの職員が賛成していることが分かる。

男女別を見ると、概ね同様の傾向が見られる。年齢別の傾向を見ると、特に若い世代では賛成している職員が多いことが分かる。



<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.賛成	58%	60%	73%	69%	49%	50%
2.どちらかといえば賛成	33%	34%	22%	24%	39%	42%
3.どちらともいえない	6%	4%	3%	2%	8%	8%
4.どちらかといえば反対	1%	1%	1%	0%	3%	0%
5.反対	0%	0%	0%	1%	0%	0%
6.わからない	1%	1%	0%	3%	1%	1%

問4-2 問4-1で、賛成・反対と回答された方に質問です。そのように思う理由は何ですか。

代表的な意見は以下のとおり。

<賛成意見の理由>

- ・男女共に、育児・介護を行うべきだと思うから。
- ・子供にとって良い影響を与えるとともに、良い家庭環境を築くことにつながるから。
- ・子育ては貴重な経験であるから。

他にこのような意見もあった。

- ・自分がとれなかったから、将来の世代にはぜひ取得して欲しいと感じているから。
- ・性別に関わらず、気兼ねなく取得できる職場環境を望んでいるから。
- ・10年後、20年後に男性職員が育児休暇や介護休暇を取得することが当たり前にするためにも、今から積極的に取得すべきである。

<反対意見>

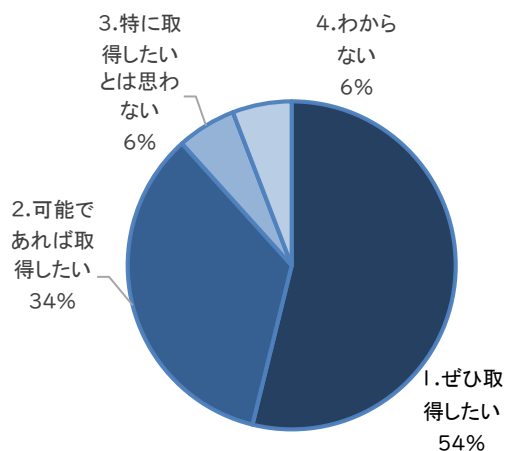
- ・人員体制が整っていなければ、育児休暇や介護休暇を取得することは難しいから。

・周りの職員が負担増となるため。

問 5-1.あなたは、育児休業を取得したいと思いますか。（自分が育児を担う立場になったと仮定してお答えください。）

育児休業取得については、54%の職員がぜひ取得したいと回答しており、可能であれば取得したいも合わせると、88%となることから、ほとんどの職員が取得を望んでいることが分かる。

男女別を見ると、男性は可能であれば取得したいという回答が多い一方、女性はぜひ取得したいと回答している。年齢別の傾向を見ると、特に若い世代では取得を希望している職員が多いことが分かる。



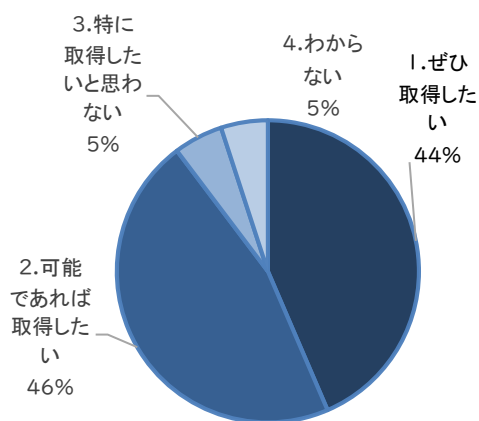
<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1. 男性	2. 女性	1. 10・20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代以上
1. ぜひ取得したい	38%	81%	73%	60%	49%	42%
2. 可能であれば取得したい	48%	13%	24%	31%	35%	43%
3. 特に取得したいとは思わない	7%	3%	1%	3%	9%	8%
4. わからない	7%	4%	1%	6%	7%	8%

問 5-2.あなたは介護休暇を取得したいと思いますか。（自分が介護を担う立場になったと仮定してお答えください。）

介護休暇取得については、44%の職員がぜひ取得したいと回答しており、可能であれば取得したいも合わせると、90%となることから、育児休業と同様に、ほとんどの職員が取得を望んでいることが分かる。

男女別を見ると、育児休業と同様に、男性は可能であれば取得したいという回答が多い一方、女性はぜひ取得したいと回答している。年齢別の傾向を見ると、特に若い世代では取得を希望している職員が多いことが分かる。



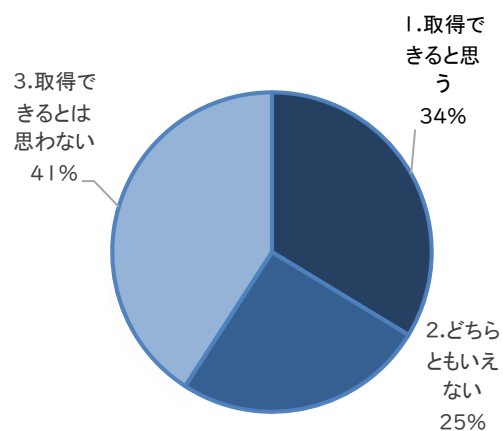
<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1. 男性	2. 女性	1. 10・20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代以上
1. ぜひ取得したい	33%	61%	60%	47%	39%	36%
2. 可能であれば取得したい	56%	31%	31%	42%	50%	55%
3. 特に取得したいとは思わない	6%	2%	1%	6%	4%	8%
4. わからない	4%	6%	7%	6%	7%	1%

問 6-1.あなたは、現在の環境で自分が1か月以上の育児休業・介護休暇を取得できると思いますか。
 （自分が育児・介護を担う立場になったと仮定してお答えください。）

育児休業・介護休暇取得については、問 5-1 でほとんどの職員が取得したいと考えているが、実際取得できると思うと答えた職員は、34%であった。41%の職員が取得できるとは思わないと回答していることから、希望していても、取得できないと感じている職員が多いことが分かる。

男女別を見ると、女性よりも男性職員の方が取得できるとは思わないと回答している比率が高い。年齢別の傾向を見ると、年代が上がる程、取得できるとは思わない職員が多い傾向にある。



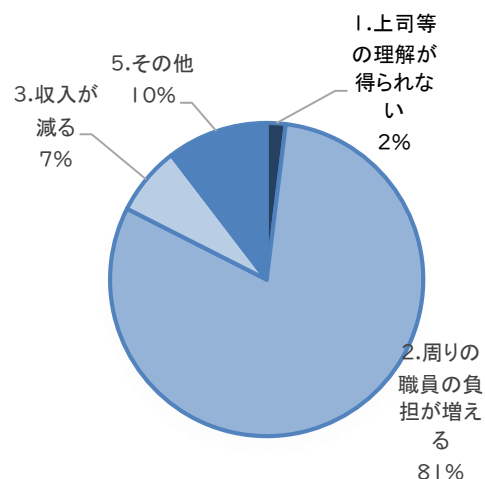
<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.取得できると思う	26%	46%	47%	35%	28%	31%
2.どちらともいえない	28%	23%	18%	31%	27%	24%
3.取得できるとは思わない	47%	31%	35%	34%	46%	45%

問 6-2.問 6-1 で「3. 取得できるとは思わない」と回答された方に質問です。そのように思う理由は何ですか。

育児休業・介護休暇を取得できないと思う理由については、周りの職員の負担が増えるという回答が 81%と最も多かった。周りの職員の負担を考えて、取得を躊躇している職員が多いことが伺える。また、収入が減るという回答も一部あった。

男女別を見ると、その傾向は男女でほとんど変わらず、年齢別の傾向を見ると、特に 40 歳代において、92%の職員が周りの職員への負担増を懸念していることが分かる。

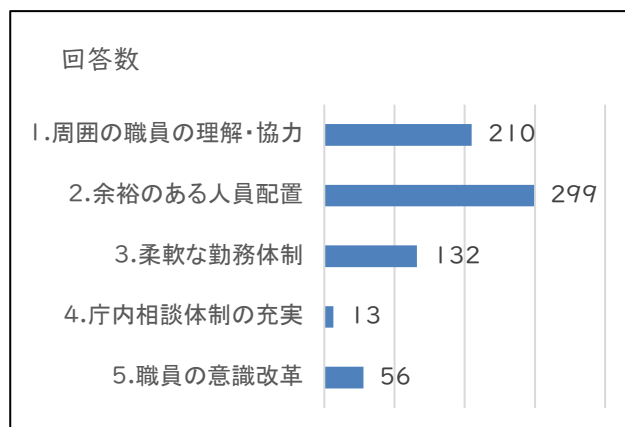


<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.上司等の理解が得られない	1%	2%	10%	3%	0%	0%
2.周りの職員の負担が増える	81%	82%	62%	81%	92%	75%
3.収入が減る	7%	9%	14%	6%	6%	6%
4.昇進、昇給への影響がある	0%	0%	0%	0%	0%	0%
5.その他	11%	7%	14%	9%	2%	19%

問 7. 育児休業・介護休暇を男女問わず取得できるようにするためには、何が必要だと思いますか。
あなたの意見に近いものを2つ選んでください。

育児休業・介護休暇を男女問わず取得できるようにするためには、余裕のある人員配置が必要と答えた職員が最も多かった。問6-2で、周りの職員の負担を考えて取得を躊躇している職員が多いことを考えると、余裕のある人員配置は不可欠である。また、育児休業・介護休暇を取得することに対して、職員が理解・協力していくことも重要である。

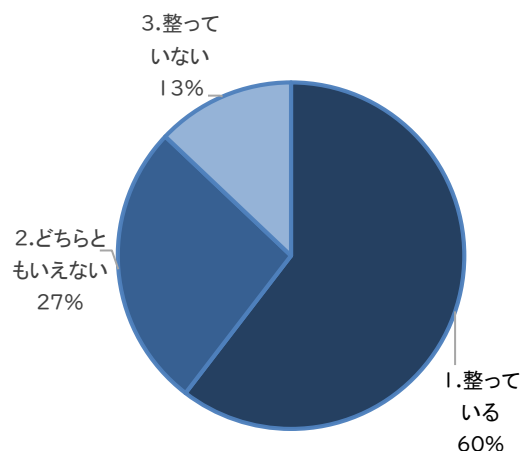


3. 労働環境やワークライフバランスについて

問 8-1. あなたの職場は働きやすい環境が整っていますか。

6割の職員が整っていると回答しているが、約1割の職員は整っていないと回答している。3割程度がどちらともいえないと回答している。

男女別を見ると、その傾向は男女でほとんど変わらず、年齢別の傾向を見ると、特に10・20歳代の職員で、働きやすい環境が整っているとの回答が73%と多かった。



<男女別・年代別クロス集計結果>

	男女別		年代別			
	1. 男性	2. 女性	1. 10・20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代以上
1. 整っている	61%	59%	73%	57%	59%	57%
2. どちらともいえない	25%	30%	22%	30%	27%	27%
3. 整っていない	13%	11%	4%	13%	15%	16%

問 8-2. 問8-1で「②どちらともいえない」「③整っていない」と回答された方に質問です。そのように思う理由は何ですか。(自由記述)

「②どちらともいえない③整っていない」と回答した職員(150名)の自由記述回答内容を分析したところ、回答内容で特に多かったのは以下の3つでした。

1. 人員不足・業務量の多さに関するもの(62名が言及)
 2. 時間外労働の多さに関するもの(13名が言及)
 3. 業務の偏りに関するもの(4名が言及)
- 他に、1~3以外の意見記述(その他)あり(40名)

<1. 人員不足・業務量の多さに関するもの>

- ・業務量が、年々増加しているのに人員体制が整っていない。
- ・人員削減が進んだが、会計年度職員を増やただけで、仕事の取捨選択は行っていないことから、働きにくさが増している。
- ・ぎりぎりの人数で仕事をしているため余裕がなく、代休も取れない状況になっている。

<2. 時間外労働の多さに関するもの>

- ・時間外勤務が多く、心身ともに疲弊している。
- ・業務量が多いため、残業が多く、平日なかなか定時で帰ることができない。

<3. 業務分担の偏りに関するもの>

- ・業務量負担に偏りがある。平準化できれば改善するのではないかな。
- ・特定の人に仕事が偏っている状況になっている。

<その他>

- ・自身の能力不足により、まだ余裕を持って仕事ができていない。
- ・専門知識・技術を必要とする仕事であるが、人材育成等に要する時間がない。
- ・非効率的な慣習や曖昧なルールが多い。
- ・業務の量に対して、システムの効率が良くない。

問9 あなたは家事を平日1日にどのくらい行いますか。

平日1日あたりの家事時間は、全体で平均 81 分であるが、男女別の平均時間を見ると、男性 60 分、女性 123 分と約2倍の差があり、やはり女性職員の方が、家事を行う時間が長いことが分かる。

また、全く家事を行わない職員もいる一方、平日に5時間以上の家事を行っている職員もいることから、その負担感、人によってかなり異なることが分かる。

平日1日あたりの家事平均時間(男女別)

全体	男性	女性
81分	60分	123分

平日1日あたりの家事平均時間(区分ごとの人数)

無回答	0	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上
7人	13人	43人	74人	136人	55人	41人	11人

問10 あなたのご家族の状況についてうかがいます。現在、育児が必要なご家族はいますか。

育児を必要とする家族がいるのは、約2割の職員であった。8割の職員には、育児を必要とする家族がいないことから、育児中の職員への配慮や視点が必要であると考えられる。

育児が必要な家族がいる職員

1.いる	2.いない
83人	297人
22%	78%

問11 問10で「1.いる」と回答された方に質問です。育児を平日1日にどのくらい行いますか。

平日1日あたりの育児時間は、全体で平均133分であるが、男女別の平均時間を見ると、男性106分、女性177分と約1.7倍の差があり、やはり女性職員の方が、家事と同様に、育児を行う時間が長いことが分かる。

また、全く育児を行わない職員もいる一方、平日に5時間以上の育児を行っている職員もいることから、その負担感は、職員によってかなり異なることが分かる。

平日1日あたりの育児平均時間(男女別)

全体	男性	女性
133分	106分	177分

平日1日あたりの育児平均時間(区分ごとの人数)

0	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
2人	3人	11人	26人	13人	17人	11人

問12 現在、介護が必要なご家族はいますか。

介護を必要とする家族がいるのは、職員の1割に満たない。ほとんどの職員は、介護を必要とする家族がいないことから、介護中の職員への配慮や視点が必要であると考えられる。

介護が必要な家族がいる職員

1.いる	2.いない
26人	354人
7%	93%

問13 問12で「①いる」と回答された方に質問です。介護を平日1日にどのくらい行いますか。

平日1日あたりの介護時間は、全体で平均45分であるが、男女別の平均時間を見ると、男性26分、女性72分と約2.8倍の差があり、やはり女性職員の方が、家事・育児と同様に、介護についても負担が大きいことが分かる。

また、全く介護を行わない職員もいる一方、平日に3時間以上の育児を行っている職員もいることから、その負担感は、職員によってかなり異なることが分かる。

平日1日あたりの介護平均時間(男女別)

全体	男性	女性
45分	26分	72分

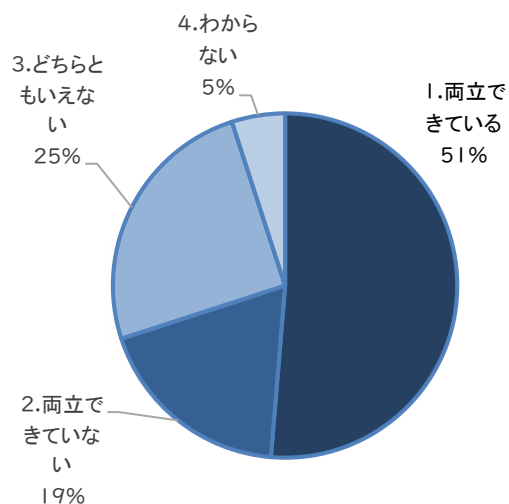
平日1日あたりの育児平均時間(区分ごとの人数)

無回答	0	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
2人	4人	5人	7人	5人	1人	2人	0人

問 14-1.あなたは、プライベートや家庭を含む私生活と仕事の両立ができていますか。

約5割の職員が両立できていると回答しているが、約2割程度の職員は両立できていないと回答している。また、約3割の職員がどちらともいえない、わからないと回答している。

男女別を見ると、女性の方が両立できていないと感じている傾向が強い。また、年齢別に見ると、特に30歳代、40歳代においては、両立できていないと感じている職員が多いことが分かった。



<男女別・年代別クロス集計結果>

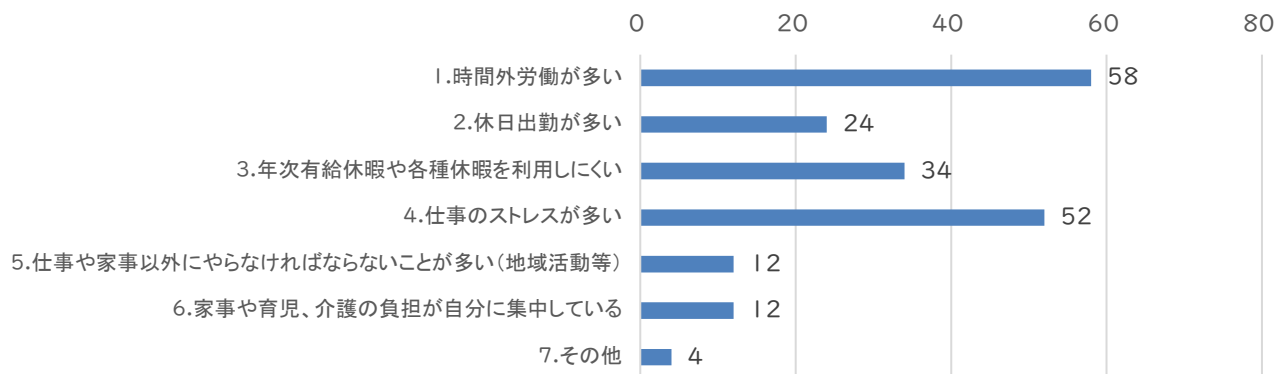
	男女別		年代別			
	1.男性	2.女性	1.10・20歳代	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代以上
1.両立できている	57%	43%	55%	47%	48%	57%
2.両立できていない	17%	21%	12%	22%	24%	14%
3.どちらともいえない	22%	30%	25%	27%	24%	24%
4.わからない	4%	6%	7%	4%	3%	6%

問 14-2.問 14-1 で「2.両立できていない」と回答された方に質問です。そのように思う理由は何ですか。
(あてはまるものすべてを回答)

問 14-1 で両立できていないと回答した職員(71人)の内、約8割(58人)が、時間外労働の多さをあげている。次いで、約7割(52人)が、仕事のストレスの多さに言及している。他に、年次有給休暇や各種休暇の利用しにくさ(34人)、休日出勤の多さ(24人)をあげている職員も多かった。

一方で、仕事や家事以外にやらなければならないことが多い(地域活動等)や、家事や育児、介護の負担が自分に集中していると回答したことを理由にあげた職員もいた。

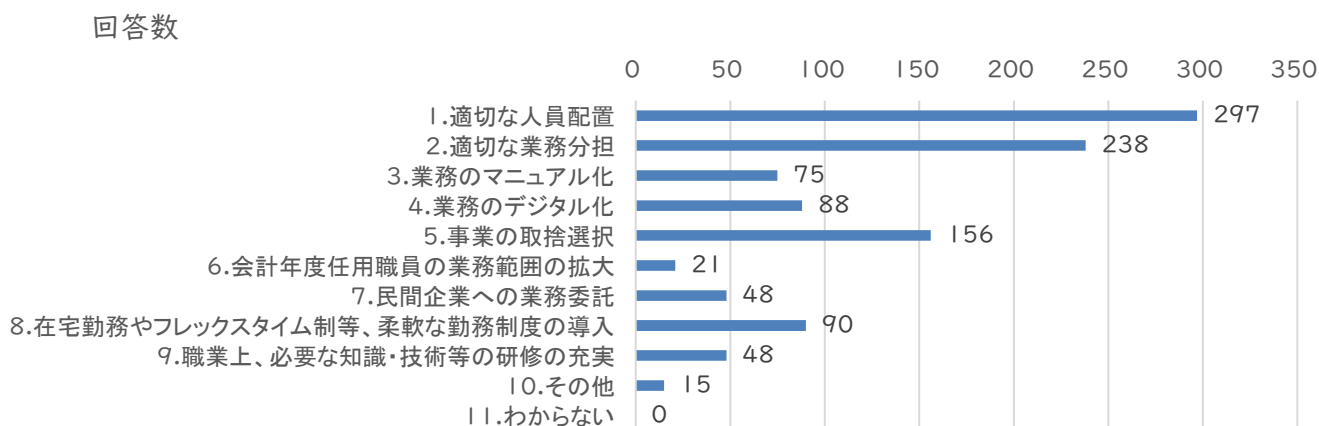
回答数



問 15.業務効率を上げて年間労働時間を短縮するには、どのようなことが必要だと思いますか。

(意見に近いものを3つ回答)

職員全体の回答を見ると、適切な人員配置と回答した職員が最も多く、次に適切な業務分担と回答した職員が多かった。また、事業の取捨選択を掲げた人も多い。また、在宅勤務やフレックスタイム制度、柔軟な勤務制度の導入や、業務のデジタル化やマニュアル化をあげた人も多い。これまでの設問でも、市役所内の人員不足や業務量の多さについては指摘されていることから、必要な職員数を確保するとともに、事業自体の取捨選択も積極的に行っていく必要があると考えられる。



問 16.あなたは直近1年間の中で、次のようなセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことがありますか。(複数回答)

約8割の職員は、セクハラを受けたことがないと回答している一方で、職場でセクシュアル・ハラスメントを受けたと感じている職員も一定数いることが分かるため、職員の意識改革がまだ必要であると考えられる。

有効回答数に対する回答割合

1.職場でわいせつな話や冗談を言うなど、好まない性的な話を聞かされた	2.「男のくせに」や「女のくせに」と性別による言い方をされた	3.不必要に体を触られた(肩に触られた、握手を強要された、腕・肩を組まれたなど)	4.結婚や出産予定をたびたび聞かれた	5.セクハラを受けたことがない	6.その他
8%	5%	2%	6%	83%	2%

問 17.あなたは直近1年間の中で、ドメスティック・バイオレンス（親密な関係にある人からの身体的、精神的、経済的暴力）を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか。

8割弱の職員は、ドメスティック・バイオレンス（DV）を受けたり、身近で見聞きしたことがないと回答している一方で、約2割の職員が身近で見聞きしたことがあると回答している。また、3%の職員が、自分が受けたことがあると回答している。DVに関しては、周囲に相談するなどの体制が必要であることから、市民だけでなく、職員に対しても、相談窓口の周知等が必要である。

有効回答数に対する回答割合

1.自分が受けたことがある（暴力を受けた、暴言を言われた、無視された、脅された、生活費を入れてくれない など）	2.身近で見聞きしたことがある	3.自分が受けたことも、身近で見聞きしたこともない
3%	21%	75%

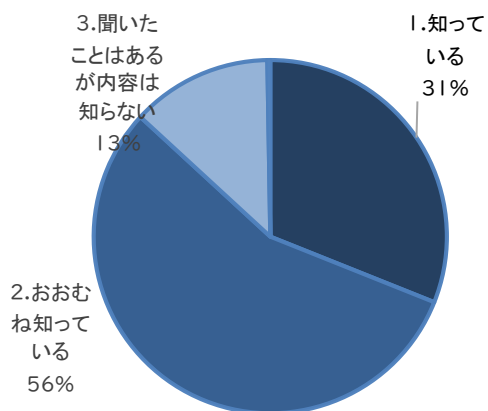
4. 男女共同参画に関する理解について

問18.男女共同参画社会に関する以下のことばについて、どの程度ご存知ですか。あてはまる項目を選んでください。

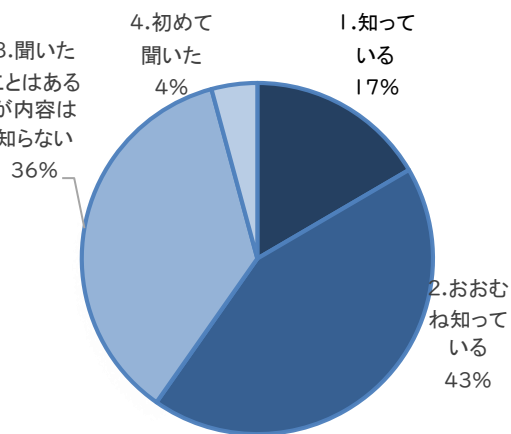
男女共同参画社会に関することばについて、理解度を聞いた結果は、以下のとおりであった。

特に、「オ リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）」や、「キ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）」について、初めて聞いた職員が、それぞれ 65%、73%と多かったため、今後積極的な啓発が必要である。

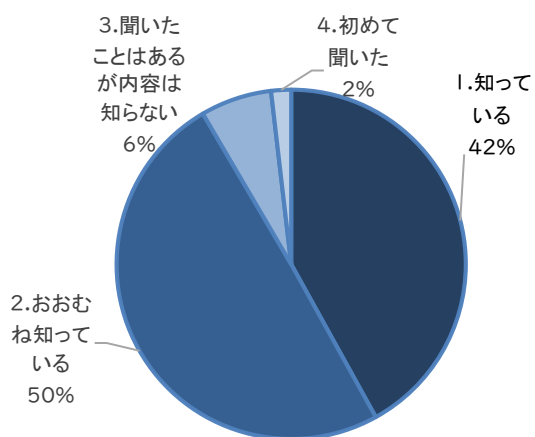
ア 男女共同参画社会



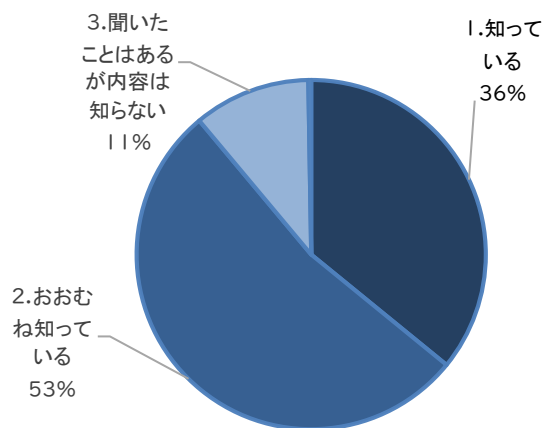
イ 米沢市男女共同参画基本計画



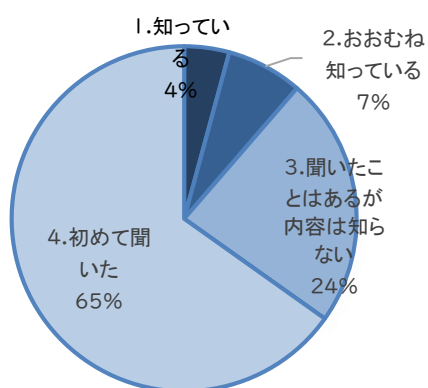
ウ ジェンダー（社会的・文化的に作られた性差のこと）



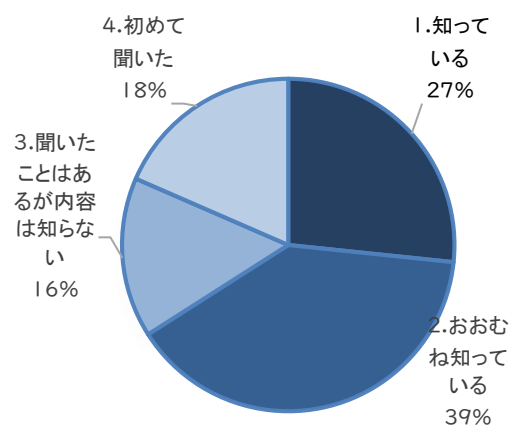
エ ワーク・ライフ・バランス（仕事の生活の調和）



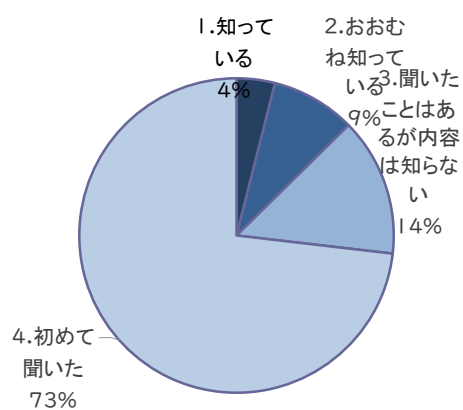
オ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）



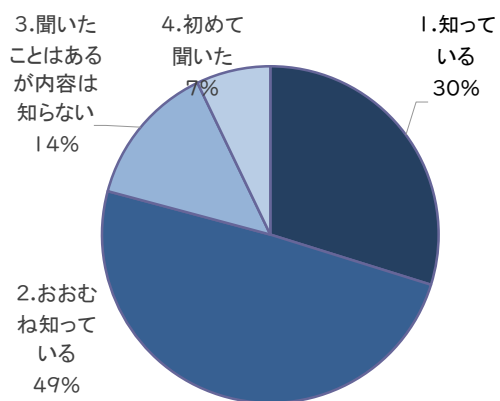
カ デートDV（恋人などの間柄での体、言葉、態度による暴力）



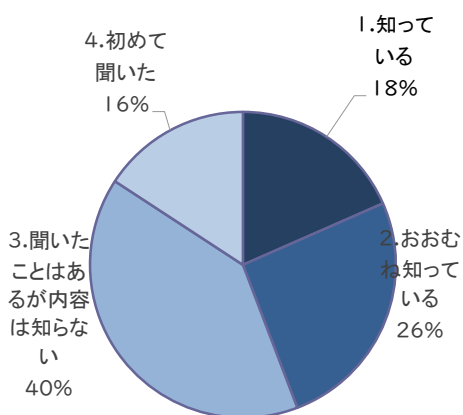
キ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）



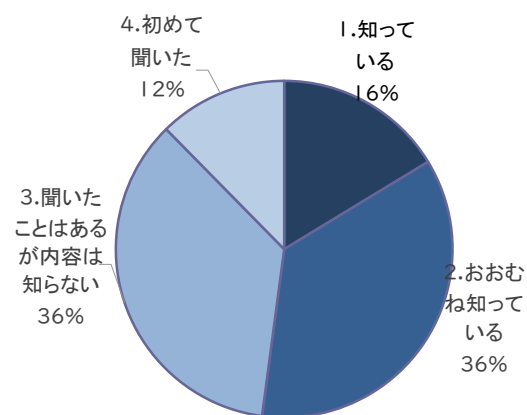
ク LGBTQ（主に性的少数者を表す言葉）



ケ ダイバーシティ（多様性を表す言葉）



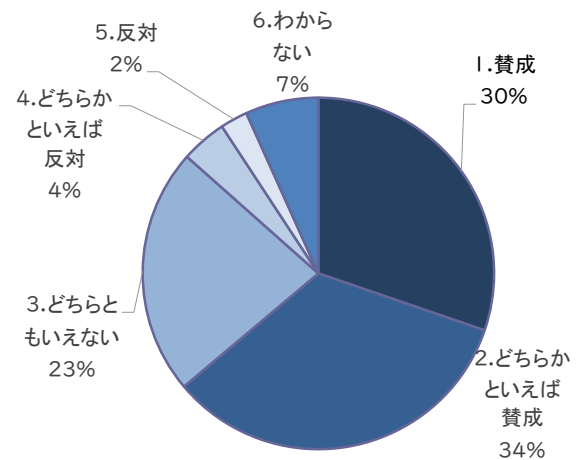
コ パートナーシップ制度（自治体が独自にLGBTQカップルに対して、「結婚に相当する関係」と証する証明書を発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度）



問 19-1. 問 18 で「パートナーシップ制度」について、「1.知っている」と回答された方に質問です。米沢市でのパートナーシップ制度導入についてどう思いますか。 ※令和 4 年 4 月 1 日時点では全国で 209 自治体が導入しています。

パートナーシップ制度については、賛成・どちらかといえば賛成と回答した職員が、64%となっている。また、反対・どちらかといえば反対と回答した職員は、6%程度であり、概ね賛成している人が多い状況が分かる。

一方で、どちらともいえない、わからないと回答した人も、30%程度いることから、LGBTQ や、パートナーシップ制度についての理解促進を進めていくことも重要である。



問 19-2 問 19-1 で「① 賛成」「⑤ 反対」と回答された方に質問です。そのように思う理由は何ですか。

(自由記述)

①賛成、⑤反対についての理由としては以下のような回答があった。

<賛成理由>

- ・多様化している現代において、同性であるという理由だけで婚姻届が出せない人が、少しでも住みやすい環境を作りたいと思うから。
- ・誰もが、自分が望む生き方ができるよう、行政はできる限りサポートしていくべきだと思うから。

<反対理由>

- ・手続きが簡易であり、結婚制度と同等の税制優遇等が受けられるということであれば反対。結婚以上に制度の悪用(偽装など)が増えることが想定される。
- ・最近盛んにLGBTQという言葉を目にするようになったが、逆に過剰な反応ではないかを感じる部分もあるから。まずは、差別等をしないなど基本的なことから進めるべきである。